三月の短歌

五千歩を目指してあゆむ里山の　　　　　　岩本ひろこ

　　　芽吹きの音を今日は聞きたし

野も山も動き初めたり風も春　　　　　　　岡　恵美子

　　　庭の沈丁ほのかに匂ふ

亀嵩の駅舎に名物蕎麦すする　　　　　　　山﨑　幸代

　　　「砂の器」思い出しつつ

厨辺の梅ほつほつと膨らむを　　　　　　　原　　敬子

　　　愛でし亡母思う春待つ朝に